農業組織経営体の事例収集・蓄積・情報提供

～　空知管内における法人化の推進に向けた取組　～

対象：法人化実践農家　など

１　活動の背景

◇農業・農村を支える人材の状況

・後継者の不在や農業従事者の高齢化が進む中、個人経営体の戸数は減少しており、将来の個人経営体数の予測では、2020年と比較すると15年後は56%の水準になると予測される（図１）。
・将来の１経営体当たりの経営耕地面積の予測では、2020年と比較すると15年後は144%の水準になると予測される（図２）。

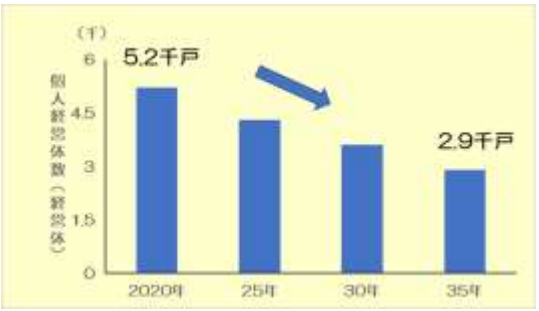

図１将来の個人経営体数の予測

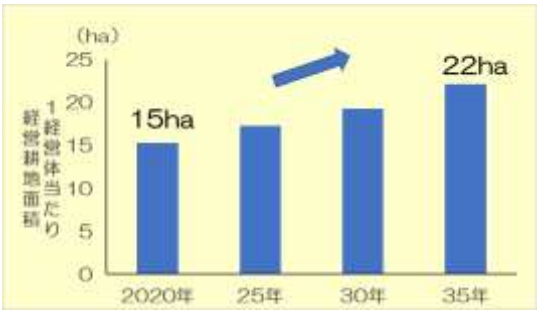

図２将来の1経営体当たりの経営耕地面積の予測

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構農業研究本部
「2020年農林業センサス』を用いた北海道農業･農村の動向予測」より引用

農業経営を守る対応策のひとつに、多様な人材を受け入れ、
規模拡大に対応できる農業法人が重要と考える

２　活動の経過

・令和７年から始まった空知プロジェクト人づくりWG（以下、人づくりWG）（空知総合振興局、空知農業改良普及センター）、JAいわみざわ地域農業振興センターと連携し、管内外の農業法人の優良事例を調査し、法人化の推進に向けて活動を行った。

① 各地域係からの情報提供と協議により、優良事例である農業法人を選定した

② 選定した農業法人は、特徴に応じてタイプ別に分類した

③ 農業法人の調査に向け、人づくりWGと協議しつつ聞き取り項目を整理した

④ タイプ別の農業法人から聞き取り調査を行った（管内７事例、管外２事例）

	複数戸法人	法人のタイプ	調査法人	市町村
空知管内（７事例）				
事例１		地域外参入者への 継承型	(株)竜西農場	北竜町
事例２	○	スマート農業・６次化導入型	(有)HJYさくら	沼田町
事例３		家族協力型（一戸法人）	(有)新田農場	岩見沢市
事例４	○	農地受入型（土地利用）	(有)フューチャー	月形町
事例５	○	冬季作業導入による通年雇用型	(有)NOAH	南幌町
事例６	○	作業受委託併用型	(株)粒里	栗山町
事例７		多様な人材(外国人・農福連携)活用型	(株)三木田	長沼町
オホーツク管内（２事例）				
事例８	○	○効率化経営型(作業分担による労働時間削減)	(有)木樋桃源ファーム	津別町
事例９	○	○集落法人型(JA･役場と協力体制)	(農)勝山グリーンファーム	置戸町

人づくりＷＧのメンバー等と農業法人から聞き取り調査を行う様子

３　成果の具体的内容

・農業法人から聞き取りした内容（法人化のきっかけ、法人経営のポイントや法人経営のメリット・デメリットなど）を、人づくりＷＧで分担し、農業者や関係機関向けに編集し、事例集を作成した。

事例集

法人経営のメリット
□収量向上（法人内で栽培が上手な人が担当するため）
□不要な機械を待たずに済む
□作業の共同化で効率向上
□縁故以外から人材確保が可能
□福利厚生の充実による従業員のモチベーションがUP
□後継者の育成が計画的にできる
□取引業者からの信頼が高まる
□新しい作物や技術への挑戦、技術の共有がしやすい
□経営と家計の分離で経営の把握が容易
□税制面
など

農業法人から聞き取りした内容
（事例集より抜粋）

４　今後の課題と対応

・事例集は、普及センターや関係機関が法人化の意識醸成や検討支援を行う際に活用し、必要とする農業者に情報提供を行う。
・普及センター職員が、農業者の法人化を支援する際の参考資料としてより活用できるように、資料の情報を補完・拡充する。